

「エイズ感染者を親に持つ子どもの自立支援」
石川小百合・瀧純代・金井美保子・入り江郁美・小池愛樹

タイでは経済基盤があまり強くないので、社会に於いて弱者層、女性や子どもに対して様々なしわ寄せが生じている実態が今日も続いている。この社会問題は彼らが自立した生活を送る事を困難にしている。そして、これら弱者層が最もお金を稼ぐ事が出来る手取り早い方法のひとつに売春がある。そして、売春によって様々な性病が彼らの体を蝕んでいる。その代表的な病気がエイズである。

現在、この国ではおよそ100人に1人の割合でエイズキャリアが存在している。そこから様々な問題が発生している。まず、エイズにより労働者の数の減少が見られる。経済成長を進めているタイを支えているのが労働者層である。また、エイズは母子感染によって、国の将来を担う子どもへのダメージも大きい。エイズによって両親を亡くした子どもたちがエイズ孤児となり、街で働いているなどの実態がある。エイズは人々の健康面だけではなく、国の経済にも大きな影響を与えているのである。

そこで、エイズ孤児を支援するために、我々は子どもたちが自分たちの力で生活してゆける寮を建設することを提案する。今回の「国際協力資金」3000万円のうち3分の2程度を現地での設備投資、人件費、教材費などに当て、残りを3分の1程度は日本での広報活動やスタッフの渡航費にあてる。

次に、施設の内容について述べる。30人ほどの子供を受け入れられる大きさにし、2つの教室と食堂と保健室、寝室そして、自給自足のための小規模な農園などを設ける予定である。この2つの教室は乳幼児を対象にしたところと、義務教育が年齢に達した子供に基礎学力を身につける所に分ける。

ここでタイの教育についてまとめてみると、教育制度は6-3-3-4制であり、義務教育は6年である（初等教育は7-15才）。就学率は男女ともに高く（初等：93.7% 中等：32.6% 高等：9.4%）識字率も男女平均が93%と高い。しかしエイズ孤児は、教育を受けるための機会や資金や環境といったものに恵まれていないため、この施設の中で教育していく。

まずエイズ孤児には、字を教える必要がある。識字率を向上させることは、保健、飢餓、そして貧困といったより大きな問題に取り組む上で必要不可欠なことである。そのため、小学校へ通うことのできなかつた孤児が字を書けるようになるようまた、十分な指導ができるために教科書とカリキュラムを作成する。

孤児たちにはエイズ問題について教育することが大切である。親と同じようにエイズによって苦しまないようにしていかなければならない。親をなくし、お金がないことから生活のために売春にはいる少女がいるが、そういったことを防ぐことで、エイズ感染率を低下させることができるだろう。またエイズ患者の多くが周囲から差別されることをおそれて隠していることがエイズ感染予防の妨げになっている。そのためにはエイズについての正しい知識が必要となってくる。エイズに対する正しい理解、予防法を教育する。エイズ教育用教材を作り、指導していく。エイズ孤児の教育水準を少しでも高くすることはタイの発展にもつながるといえるだろう。

教育のほかに、私たちはエイズ孤児たちの保健・衛生管理についてもサポートしていきたいと考える。エイズ孤児にとって一番不安に感じられることはおそらく、もしかすると自分もエイズ（HIV）のキャリアなのではないかということであろう。先に述べたよう

に、タイでは100人に1人がエイズキャリアと言われている。そして、2001年10月6日の毎日新聞によると、1999年末時点でのタイのエイズ孤児の累積数は7万5千人にも及ぶ。しかし、そういったエイズ孤児にはそれを調べる機会がないのが現状である。そこで我々は、施設の中で孤児達が年に1回でも検査を受けられるような環境を整えたい。例えば、医療スタッフの派遣や保健室の整備、状況によっては医薬品提供なども考えられる。

タイでは、こういった施設をでても職業に活かせる技術が無いため、再び性産業に戻ってってしまう子供が多い。だからこそ、この施設を出たあとも、自立して暮らせるために施設にいる間、就職につながるような技術を身に付ける時間を設ける。具体的に、裁縫や野菜の栽培、手工芸品、染色などの技術である。裁縫・手工芸品・染色の技術を身につけることによって商品を作ることができる。例えば、民族刺繍を施したタペストリーや衣類などを製作し、先進国などでも販売することもできる。その売上を施設の維持費にも使用できるのではないだろうか。また、タイの主要輸出品には衣料がある。衣料品を作る工場などにも就職して自立することができると考えている。

タイでは、GNP にしめる農業の地位は低下しているものの、就業人口の約4割を占める最重要産業である。したがって、施設内の農場でじゃがいもやとうもろこし野菜などを作って、農業体験を経験できればと思う。そこでとれた作物は、施設で消費することができた、多く収穫できた場合は近くの町などで販売しに行くことが可能である。

以上のように、エイズの孤児の社会的自立を目的として、この施設では教育・保健・職業訓練の支援を重点的に行いたい。